

三芳だより

2013年 12月号 (第197号)

三芳村生産グループ事務所

電話：0470-36-2274 FAX：4016

(火・木・土) 9:00~11:00

< 表面 >

- 1) 代表 あいさつ お礼
- 2) 出荷事務より
- 3) 配送を始めて・・・

< 裏面 > (写真が中心)

- 1) 原発ゼロと有機農業
- 2) 感謝祭の様子 写真展
- 3) 軽トラ物語

感謝祭のお礼

三芳村生産グループ代表

古宮政義

新穀感謝祭には、食べる会から多くの皆様におあつまりいただきまして盛大に行うことが、出来ました。

天気にも恵まれ、顔ぶれも宅配会員の皆様、若い家族連れの方々から

毎年お馴染みの皆さん等、様々でした。

今年は、食べる会との提携も四十年を迎え、様々な問題や課題が山積みですが、生産者、消費者共に力を合わせて、克服していききたいと考えます。

よろしく願います。

出荷事務より

君塚弘和

☆ 年末年始の配送

今年は、12月31日(火)の配送を一日前(29日)にずらし、

12月30日(月)を最終日とします。

よってポスト(火曜コース)の方の荷受けは12月30日(月)

宅急便会員(イ・ロ・ハ)の方は、

12月31日の到着となります。

里帰り等で留守にされる方は、ご一報くだされば通常とは違う送り先に野菜をお届けします。

その際は、左記の「お正月セット」

同様の内容を、出来ましたらFAXで願います。

☆ 開運！ お正月野菜セット

「注文を受け付けます。12月

30日に作り12月31日に宅急便でのお届け。例年2500円〜3500円位(送料580円は別)。中身はおまかせとなります。ご希望の方は、「お名前(ポスト名)」「宅急便会員の方は曜日」「送り先の「郵便番号」「住所」「電話番号」受け取る方違う場合は「受け取り者のお名前」。そして必要な場合は「時間指定」を三芳までご連絡ください。

☆ もち米の特注について

11月末より、皆様にもち米の比例配分をさせて頂きました。今年ももち米が例年以上にあまっています。その為、昨年までは白米のみの扱いでしたが、「玄米もち米」「玄米のし餅」の特注を受け付けます。ご注文をお待ちします。尚、比例配分はすべて白のみとなります。

配送しつねね

田原晴夫

配送に行き始めて11ヶ月。初めのうちはどこに行ったのかも分からなかった助手からスタート。やっ

と火曜日の1号車、3号車は何とか行けるようになりました(間違えることもしばしば)。

消費者の皆さんと野菜について話すほどに、無農薬野菜の大切さが今更ながら感じる次第です。また他の生産者の野菜を見て私もまだまだ野菜つくりにもっと勉強が必要だと思い知らされる今日このごろです。(編集部注 田原さんは26番の田原弘さんのお子さん。お菓子屋さんに勤めながらの兼業。大学2年の娘さんと高3の息子さんのよきお父さんです)

☆ 原発ゼロと有機農業

八代弘樹

先日、テレビ等で伝えられた小泉元首相の「原発ゼロ」発言はご覧になったでしょうか？

「原発ゼロ」「有機農業」この二つの言葉は一見全く関連が無いように思えますが、小泉さんの話を聞いた時、私にはそう思えませんでした。

小泉さんの話を聞いた国民のほとんどの人は、きっと正論に聞こえたと思います。しかし、原発は今までの政策として続けてきましたもの。ですからいきなりゼロにするのは現実的には確かに厳しいと思います。自民党も脱原発の方向性という意味では小泉さんの意見とそう変わらないと言いつつしていました。しかし自民等の「脱原発の

方向で・・・」という案で本当にできるでしょうか？

約40年前、「安全な食べ物をつくって食べる会」「三芳村生産グループ」の二つの会が発足しました。それまでの三芳の農家は農薬使用に疑問を持った人はいたものの、皆が農薬を使っていた。その時、小さな子供を持った都会のお母さん達がもしも、即完全無農薬を要求せずに、例えば「少しずつ農薬減らして、5年後までに無農薬を実現してください」と農家にお願していたとしたら、多分有機栽培は実現できなかったと思います。今まで使用していた農薬を手元においておいたとしたら、多分無理だったと思います。

家庭菜園を持っている人ならわかると思いますが、自分で育てた野菜の味は格別です。もちろんその野菜が病気になったり、害虫に食べられたりしていたら、何とかしてあげたくなるのが人情。しかし家庭菜園のような広さであれば、手作業でなんとかする事もできると思いますが、農家の田畑の広さではそうはいきません。害虫も発見が遅ればもう手のほどこしようもありません。一生懸命世話をした野菜が収穫直前になってダメになる事はよくある事です。

私たち三芳の農家は農薬と化学肥料を持っていません。しかし私がおもしろ農薬を持っていたとしたら、使ってしまったっていかもしれません。人の意志は弱いもの。ですから農薬を使って楽をする事を覚えたら、今のように頻繁に畑の見回りもしなかったであろうし、

この二つの会はきつとつづくの昔に消滅していただしよう。

ここでまた小泉さんの話に戻りますが、要するに40年前のこの会のように、思い切った方向転換をするつもりでないと、原発ゼロはきつと不可能だという事です。小泉さんは多分そういう事も想定済みで、今回の発言をしたのだと思います。そういう小泉さんには頭が下がりますが、40年前に思い切った決断をして、この二つの会を発足させた先輩方には本当に感謝しながら、これからも頑張りたいと思います。

新穀感謝祭 フォトギャラリー



出荷場からすぐの「山名共同館」の庭で開催。田園風景を眺めながら。



焼き鳥、餅、生産者手作りのオードブルが沢山。



三芳未体験会員様は、ぜひ来年お越し下さい！

農家の必需品 軽トラ物語

大橋一史

農作業の中で「機械を」「収穫物を」「支柱などの資材を」「苗を」の後に続く言葉・・・それは「運ぶ」です。農作業のあらゆる場面で、毎日活躍する

のが軽トラ。勿論、生産者全員が所有しています。



出荷日には、こうして軽トラックがズラリ。4WD・エアコン付の新車でおよそ90万円位。

私も新規就農した際、真っ先に軽トラを購入。当時幼稚園児と一歳の子供達はこの荷台に乗るのが大好きで農道や山道に乗せて走ったものでした。ところが思春期になると途端に、「恥ずかしい車」になるようで、子供を駅まで迎える時は、駅前ではなく路地を入った目立たない場所を指定されます。悪いものを取りしているような感じ。

酷使され、ワックスどころか洗われることさえほとんどない何とも可哀相な軽トラック。しかし先日、木更津の高校に通う息子のPTAに軽トラで乗り付けたところ、他の親から「大橋さん農家ですか？ じゃあ広い土地持っているんですね」と妙な感心のされ方を。「木更津ではなく南房総の方で」とは言えず、誤解させたままに。初めてステータスっぽく見られ軽トラも満足・・・かな？